

# フィールドスタディ 中国 黄河流域

## —黄土高原の砂漠化防止と、歴史都市の文化、都市環境を学ぶ—

担当教員名 石神 隆／日原 傳

### 1 コースの概要

日 程	2014年8月28日～9月6日
場 所	中国 内蒙古自治区、西安市、北京市
参加人数	15名

### 2 コースの目的

地球環境問題のショールームともいわれる、中国黄河流域黄土高原の砂漠化、水資源問題、人口食糧問題、農村生活環境などを現地で身をもって体験し考える。

古都・西安（唐の都・長安）を訪問し、中国の歴史や文化を学習、また、現地の大学で大学生同士の交流をはかる。さらに、首都北京においては、都市の歴史や文化、都市の環境や経済などについて、自主的にテーマをもって行動し学習する。

以上の行程を通して、砂漠化地域の地球環境問題、中国の歴史・社会・文化、都市と地方の経済などを体験的に学習し、また、今こそ重要な、草の根の国際交流を図る。

### 3 事前学習

オリエンテーション、現地事情などの事前講義、準備ミーティングを、6月から8月出発直前まで数回実施。特に、砂漠化についての基礎知識、黄土高原の状況とその対応、訪問都市（西安、北京）の歴史文化と都市環境、等について重点的に学習した。また、現地での大学交流の準備も進めた。

### 4 行程

#### 1日目

午前、羽田発、北京空港で国内線に乗り換え、内蒙古自治区包頭空港着、専用バスでクブチ砂漠に深夜に到着

#### 2日目

終日 クブチ砂漠。恩格貝砂漠緑化プロジェクト基地を視察

砂漠科学館にて砂漠の科学、歴史、砂漠地域の文化、社会等について学習。夜は緑化基地のメンバーと懇談会

#### 3日目

専用バスにて、クブチ砂漠を広域に視察。七星湖砂

漠生態開発区に移動。砂漠植物生態展示、砂漠博物館にて世界の砂漠問題や開発利用について学習。

#### 4日目

七星湖砂漠開発区にてラクダに乗る。同地で開催の砂漠モーターバイク選手権なども見物。移動途中で黄河本流河畔に下りる。包頭市内散策。夜、包頭駅から夜行寝台列車に乗る。

#### 5日目

寝台列車は延安等の都市を經由し、午前に西安駅到着。

午後、西安市内の文化遺産、都市遺産（鼓楼、鐘楼、碑林、城壁など）を見学。中心部老街にて自由散策。

#### 6日目

終日西安市内。世界遺産兵馬俑を見学。日中交流の祖、安倍仲麻呂の碑を訪ねる。グループごとに市内自由散策。夜は翌日の大学交流活動のための準備、演目等のリハーサル。

#### 7日目

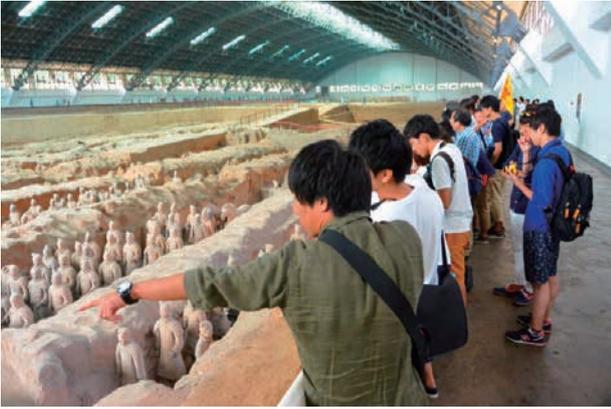
朝、西安外国語大学キャンパスに移動。同大学の副学長以下教員および約30名の学生が出迎える。昼過ぎ



砂漠緑化の学習、クブチ砂漠にて



ラクダを楽しむ、七星湖にて



世界遺産兵馬俑を見学



万里の長城にて



西安外国語大学にて同大学生とともに

まで、学内ツアー、グループでのテーマディスカッション、発表会、交歓会、食事をを行う。その後、移動し夕刻まで市内自由散策。

### 8日目

朝、西安空港から北京空港へ。着後、世界遺産万里の長城まで移動し自由行動。バス車窓より北京市内見学、景山公園に登り北京中心部および故宮全体を遠望。

### 9日目

終日、小グループごとに北京市内自由研修。夜は北

京ダックレストランにて現地報告会兼交歓宴会。

### 10日目

午前 北京空港発 午後 羽田空港着 解散

## 5 事後学習

各自の作成レポートをもとに、体験し考えたこと、学習したこと等を相互に報告しあった。また、砂漠問題の将来展望等について総括的な学習をした。文集作成予定。

## 6 雑感

「やはり現地に行かなければ中国の姿はわからない」、「中国の学生たちと交流し中国がとても身近になった」、「中国は地域も生活もかなり多様なところだ」等々、多くの事項を皆が肌身で強く感じ理解したフィールドスタディであった。各人の今後の生活設計や世界観構築の上で大きな糧となった。

## 学生の声

### 「中国 FS に参加して」



3年 小澤美伶

このFSで、砂漠での植林活動、歴史的都市景観について学びました。砂漠については事前講義で勉強していましたが、現地の方からお話を伺い、博物館を訪れることにより、机上では得られなかった知識を得ることができ、現地へ行くことの大切さを感じました。

兵馬俑坑や万里の長城の見学では長い中国史を感じ、また北京では経済成長を感じるなど、変わらない様子と進化する様子を目の当たりにしました。

この多彩なプログラムを通して、私にとって大きな収穫となったものは、私が中国という国に対して偏見を持っていたということに気付かされたことです。中国人はマナーが悪い、道徳心にかけてといった見方をしていました。しかし現地で交流した中国人大学生や、ガイドさん、道を教えてくれた方々は私たち日本人に優しく接して下さいました。このような経験から、何も知らないまま偏見を持つことがどんなに愚かなことであるかを思い知らされました。

限られた情報から物事を判断せずに、広い視野を持って知識を得ることを今後の生活で大切にしたいと思いました。